

## 令和元年度社会福祉法人伯耆町社会福祉協議会 事業報告

地域に根ざした社会福祉協議会として、この町の地域福祉推進の担い手であることを念頭において活動を行ってきました。

毎月各事業所主任責任者会議を行いながら、各事業所の事業進捗状況、課題などの情報を共有して、本会全体として職員の意思疎通を図りながら、適切な事業運営に努めてきました。

本年度は、新たに役場溝口分庁舎において、高齢者ワーキングコミュニティ事業及び溝口健康増進事業を実施することとなりましたが、伯耆町の介護予防、健康づくりの推進を本会が自主事業として担うこととなったもので、伯耆町と連携を密にしながら、さらなる地域福祉の推進に貢献していく所存であります。

### ①地域福祉部門

福祉地域座談会は3ヶ年計画の中間年（2年目）となり、昨年度に引き続き集落に出向いて地域住民とひざ詰めで意見交換を行いました。本会の活動を紹介するDVDの視聴により、本会に対する理解が進んだことを肌で感じる事ができましたし、また集落の実情に即した座談会とするために事前に意見交換のテーマを決めていただいたことで、進出する私たち自身も地域への理解がより深まり、これから社協として何に重点を置いて取り組むべきのかなどについて考えることができました。

平成29年度途中から県社協のモデル事業として取り組んできた「あつたかハートおたがいさま事業」は、地域での見守りなど支えあい体制の一層の強化を目指して取り組んできたところですが、モデル事業としては3年度目で終了します。この事業については、支え合いの基盤となる住民の主体的な地域福祉活動を支援していくものであり、本会としては財源を確保して継続していく予定です。

近年、各地で大規模自然災害が頻発している中、有事において災害ボランティアセンターの運営を担うこととなる社会福祉協議会として、職員の資質向上やノウハウの習得に努めてきました。今後、当地においても、いつ発生するかもわからない有事に備えておきたいと考えています。

平成30年度は、台風接近により中止した「福祉の集い」は、「皆が集える場所づくり ～サロンの一工夫～」というテーマで講演会を開催しました。講師の方の幅広い知識とユーモアあふれる講演は、参加者の心に響く内容で、改めてサロン活動の充実のための参考とすることができました。

また、地域住民の交流と絆づくりを集落内の危険個所マップづくりを切り口にして進める「支え愛マップづくり」は、今年度は6集落での取組を支援しました。

3月に予定していた愛の輪推進会議は「～支え愛マップづくり」への取り組みを推進するため、日野ボランティアネットワークから防災アドバイザーを招いて研修を積む予定でしたが、コロナ感染拡大防止のため実施できませんでした。今後、改めて実施をしたいと思っております。

本会が受託して実施している生活困窮者自立相談支援事業は5年目と

なり、本会が相談機関として定着し、また相談員のスキルも相当向上してきており、町当局からも高評価をえています。生活困窮者はもとより、その家族等からも相談が寄せられており、きちんと寄り添いながら自立への支援を行っています。その中には、この相談事業の目的とは異なる相談を受けることもあります。地域福祉の推進者として住民の方が困って「相談」窓口で声をあげてこられていることに思いを寄せ、「住み慣れた地域で、ささえあい安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指して、行政など関係機関につなぐなどして、連携を図りながら事業をすすめてきました。

この事業は、生活困窮に瀕する人への自立への支援として大変重要であり、受託者としての責任を果たしたいと考えています。

そのほか、様々な事業に取り組んできましたが、引き続き地域福祉の推進者である社会福祉協議会として、その責任を果たしていきたいと思えます。

## ②介護サービス事業部門

今年度の資金収支実績は、介護サービス事業全体では9,728千円のマイナスとなりました。その要因としては、溝口通所介護事業所の車両取得、また各事業所に配備しているパソコンの更新などの資産取得による支出が約5,958千円あり、そのことが単年度収支におけるマイナス要因の大きなものとなっています。

また、各事業の事業活動資金収支をみると、居宅介護支援事業の△1,985千円、岸本通所介護事業の△531千円、溝口訪問介護事業△183千円と、これらの事業がマイナスとなっています。一方で、溝口通所介護事業は、利用者数が昨年比若干の増加となるなど、その他障害サービス等々は、ほぼ、とんとんとすることができました。

昨年度の収支で居宅介護支援、溝口通所介護事業のマイナスを全体として穴埋めしていた岸本通所介護事業は、利用者数が約13%減少するなど、介護収入も約9,366千円の減収となりました。利用者数の減少の理由は、スタッフの退職等により窮屈な状態が続いていたことから、新規の受け入れを、抑え気味にしていたことなどがありますが、今後それらの課題への対応を図っていききたいと思えます。

また、居宅介護支援事業のマイナスは、利用者数実績が前年度に比し△121人(約8%)減少したことなどがあげられますが、その原因を分析し、利用者増に取り組む必要があります。

介護サービス事業における単年度の資金収支は固定資産取得を除くと、全体として約3,770千円のマイナスですが、スタッフ等も確保もできつつありますので、新規の利用者を積極的に受け入れるなど、次年度は取り返さなければならないと考えていますが、年度の終盤になって新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応等もあって利用者数も減少せざるを得ない状況が続いており、簡単ではないという思いもあります。

また、今年度は職員の退職が続く、職員体制は大変厳しい状況でありましたが、在籍する全職員の努力により利用者には、不便をかけることなくサービスを提供できたと思っています。引き続き利用者のニーズを的確に

把握し、職員が共通の目標を持ち、意思疎通を図りながら、利用者の満足度の高いサービス提供をしていきたいと思ひます。

また、多くの介護事業所において、人材の確保が困難な状況にありますが、本会においては、職員の処遇改善等も図りながら人材の定着、確保に努めていきたいと思ひます。

### ③小規模保育事業部門

令和元年度は3年目となり、小規模保育所として安定した保育サービスを提供することが出来たと考えています。一人ひとりを大切にし、自然に触れさせながら好奇心や探究心を育てる保育を行ってきました。子どもたちは健やかに成長をして、連携保育所に送りだすことが出来ました。

今年度は、昨今の保育士不足の中でありながら、保育士が計画通り確保できたことで、町からの派遣保育士も含めて各クラスに基準どおりの保育士配置ができ、安定した保育所運営をすることができました。

毎年行っている保護者アンケートでも、多くの保護者から高評価や感謝の回答をいただきました。引き続き、職員・保護者が連携を密にしながら保護者の就労支援や子どもの健全な発達に努めていきたいと考えています。

### ④健康増進事業部門

平成29年度に伯耆町が策定した「ほうき健康経営プロジェクト」に沿って、開設されたスポーツクラブ「フィットネス&スタジオパル」を本会が事業主体となって3年目となり、事業運営や収支については、概ね軌道に乗せることができたと考えています。

今年度においても、自立・健全な経営をするため、会員の加入促進と退会抑制を最重点課題として様々な事業を展開してきました。

今年度、会員数は若干減少傾向にありますが、延べ利用者数は増加しており、運動が習慣化した方が増えてきていることがわかります。こうしたための点を念頭に置きながら、会員の運動習慣を継続していただくことを考えながら、スタッフ一同取り組んできました。

会員数400名あまりの小規模クラブであり、家族的な雰囲気の中で、楽しく安全に継続して健康づくりを楽しんでいただけるよう会員への対応等を行ってきました。

スタッフ研修や、常に新たなプログラムの習得に取り組むとともに、会員へのアンケート調査を2回実施し、満足度の向上のため、常に改善していくことに努めてきました。

収支状況は安定しており、収益を本会職員に特別手当として還元することもできましたし、経営的には大きな不安はないと考えています。ただし、介護事業所同様に年度の終盤において新型コロナウイルスの出現により、退会者が続出していることは大きな懸念材料と考えています。

9月には、新たに役場溝口分庁舎において、高齢者ワーキングとコミュニティ、健康増進事業を行う「溝口テラソ」が町により開設され、本会がその運営を担うこととなりました。まだ、緒についたばかりではありますが、地道に進めていきたいと考えています。